

1 調査結果の分析

(1) 資料の選択・活用について(①～④)

ア 資料を読み取る力(①)

①の正答率は 81.4%である。【資料ア】は「防災センター 大野さんのお話」について書かれた内容であり、正確に読むことができたと考えられる。この問題は、3つの防災の具体例が「公助」、「自助」、「共助」のいずれに該当するかを線で結ぶものである。3つが完答で正答となるが、誤答率は 16.1%であった。「自助」はよくできていても「公助」と「共助」に当たるものが反対になっていたり、「公助」「自助」「共助」のそれぞれの意味を正しく理解できていなかったりする誤答が見られた。

イ 論理的に思考する力・・・事実と理由、考えを区別して捉えて、理由を書く(②)

②の正答率は 76.0%である。鈴木さんの発言内容を「資料から分かったこと(事実)」、「その事実が大事だという理由」、「自分の考え」の3つに分けたとき、「理由」に当たる内容を書く問題である。誤答率は 21.6%であり、鈴木さんの発言内容から理由を引用せずに自分が思ったことや考えたことなどを挙げたり、別の資料から引用して理由を書いたりする誤答が多かった。「書くこと」の学習で「三角ロジック」を使わせたり、授業で根拠を挙げて話をさせたりすることで、3つの要素を区別して考える力が児童に身に付くと考えられる。

ウ 論理的に思考する力・・・事実として挙げた資料が、どれなのかを判断する(③)

③の正答率は 84.1%である。全問中、最も正答率が高く、最も誤答率が低かった問題である。田中さんの発言が「水」についての内容であり、「水」に関する資料は全部で8つある資料の中で【資料オ】だけしかないので、比較的、判断しやすかったと考えられる。

エ 論理的に思考する力・・・事実と理由、考えを区別して捉えて、まとめを書く(④)

④の正答率は 73.2%、誤答率が 24.3%であり、全 10 問中、誤答率が高めの問題であった。主な誤答例は、「中 1」の文章から言葉を書き出す際に、ただ「防災の備え」とだけ解答しているものである。「自助」の大切さを伝える文章のまとめを書くという問いに対して、「自分から」という「自助」に一番大切な表現が抜けていた。問題文をよく読まず、「自助」の大切さのまとめを書くという視点が不足していたためと考えられる。

(2) 記述問題について(⑤～⑩)

⑤～⑩は読み取ったことをもとにして、自分の考えを論理的に記述する問題である。指定された字数に達していない、超えていると⑤が誤答となり、⑥以下がすべて無答となる。

ア 制限時間内に指定された字数で記述する力・・・(⑤)

正答率は 77.4%である。昨年度の 81.9%と比較すると少し低い数値である。誤答率は 16.4%であったが、無答率が 6.2%であり、昨年度の 2.5%より高い数値となった。長文や資料など問題文を読みこなし正しく理解することができない、理解するのに時間がかかり書く時間が不足したとの理由での誤答が見られた。また、長文を書くことを初めからあきらめて書こうとしないとの理由で、⑤以降、⑥～⑩の無答率が非常に高くなっていると考えられる。

イ 段落を構成する力・・・(⑥)

正答率は 65.6%である。「始めー中(2つ)ー終わり」の三部構成・四段落で、「中 1」と「中 2」には「共助が大切だと思う理由」を書くことになっているが、この条件を満たしていないことでの誤答が見られた。段落を構成して書けない実態が見られるため、構成メモの活用の仕方を教えたり、低学年から段落を意識した文章の書き方を指導したりすることなどが求められる。

ウ 資料を適切に選択して記述する力・・・(⑦)

正答率は 58.5%であり、昨年度の 69.3%を大きく下回っている。誤答例としては、自分の意見に合う適切な資料を選択できなかったこと、適切な資料を選ぶことはできていても「一つ目は～からです。」という自分の意見（「共助」が特に大切だと思う理由）を書いていなかったこと、「資料○にあるように」などの文型を用いて記述できていないことなどが挙げられる。他教科等でも、資料を用いて説明する活動の充実が求められる。

エ 資料の注目する数字や言葉を記述する力・・・(⑧)

正答率は 60.6%である。主な誤答例は、自分の意見に合う適切な資料から、資料に示されている数字や言葉などの「分かること（事実）」が記述できていないことであった。自分の考えの根拠となるのが、資料のどの数値に当たるのか、どの言葉に当たるのかがとらえられなかったのが理由と考えられる。資料を根拠にして自分の考えを述べるというスタイルを身に付けさせたり、「事実」と「考え」を区別して書く活動を日々の授業でも行ったりすることが必要である。

オ 資料の注目する数字や言葉から解釈したことを記述する力・・・(⑨)

正答率は 53.0%であり、昨年度の 64.3%を大きく下回っている。また、全問中、最も正答率が低く、最も誤答率が高かった問題でもある。資料から分かる事実を踏まえて、考えられる理由と自分の考えを書く問題である。主な誤答例は、「資料から考えられる理由（その事実が大事だと思う理由）」の意味を理解できていないために書けなかったこと、「事実」「理由」「考え」をはっきりと区別できず「考え」を記述できなかったことである。自分の考えを記述できないことは、昨年度も改善が指摘されたことであり、大きな課題であると考えられる。考えを記述する指導の充実が求められる。

カ 解釈したことと自分の意見をつなげる力・・・(⑩)

正答率は 57.1%である。この問題は、「終わり」に「中1」と「中2」の二つの段落で述べた理由とつなげて意見を書くものである。「中」で書いたことにつながる内容ではなかったり、「中」で述べた二つの理由を用いて「～したり、～したりすることが重要です。」という結びに整理して記述することができなかつたりする誤答傾向が見られた。構成メモを活用して文章を書く指導等の充実が求められる。

2 今後、重点的に指導してほしいこと

(1) 国語科の学習で

- 様々な資料を読み、目的や意図に応じて読み取ったことから自分の考えを広げて書く活動を、意図的、計画的に設定すること。
- 「事実」「理由」「考え」に着目し、それぞれを区別しながら説明文を読んだり、意見文を書いたりする力の定着を図ること。
- 長文を読む機会を増やし、限られた時間の中で内容を的確に読む力を付けること。
- 370字程度の文章を書く力を付ける活動を継続すること。

(2) 他教科で

- 図や表、写真などの非連続型テキストから必要な情報を取り出したり、取り出した情報を基に自分の意見をまとめたりする活動を取り入れること。
- 様々な思考ツールを活用したり、子ども自身が目的に合わせて思考ツールを選択したり活用したりして、自分の意見をまとめる活動を取り入れること。